



さとやま 2025年 冬号 (通巻169号)

■発行 特定非営利活動法人うしく里山の会
〒300-1212 茨城県牛久市結束町489-1
tel 029-873-8552 fax029-873-8552

■事務局 牛久自然観察の森内
tel 029-874-6600

<http://ushiku-satoyama.org>

■編集 木谷昌史



さとやま

～冬号～
No.169

特定非営利活動法人うしく里山の会 広報誌

1. 表紙 (クビキリギス)
2. お知らせ
- 3-4. プロジェクト活動報告
- 4-5. 野山の動植物
6. 裏表紙 (ミヤマウズラ)

**結束町みどりの保全区
「エコアップ」作戦参加者募集のお知らせ**

牛久自然観察の森に隣接する牛久市結束町の「みどりの保全区」で行っている森林維持管理作業「エコアップ作戦」では、地域の皆さんの協力のもと、下草刈りや除間伐、風倒木の処理等を行っています。

昨年は結束町側の杉林にて孟宗竹の伐採をおこないました。竹は冬の間に地面から1mの高さで切ると水を吸い上げてしまい枯れるの早いと聞いていましたが11月に間伐した竹からは確かに切り口から水が流れていました。竹の勢いを抑えたいので効果に期待です。

新年2月～3月は下記の通り2回の実施を予定しております。場所は女化町側の杉林、雑木林にて林床保全作業を行います。寒い季節ですが身も心も引き締め動いているうちに体も温まってきます。雑木林、杉林の景観維持へのご協力を引き続き宜しくお願いいたします。

活動日：2月27日（木）、3月27日（木）

時間：9時30分～12時

集合場所：ネイチャーセンター 横の倉庫前

参加希望の方は：活動日の1週間前までに事務局までご連絡ください。

活動の様子



林床のアズマネザサを刈る様子



強風で落ちた杉の葉と刈払ったアズマネザサを集める様子



ヒメウズ



クロスジギンヤンマのヤゴ



タヌキのため糞



ハサミムシの仲間



ノハラアザミの実



ホソミイトンボ



オオミノガ



オオカマキリの卵



ハラビロカマキリの卵

秋から冬の活動報告

竹越 敏雄

今冬も、異常気象というか、富士山の初冠雪が昨年11月7日(立冬)に観測されました。平年(10月2日)より36日も遅く、気象庁観測統計開始以来、最も遅い初冠雪です。秋らしい気候が短く、暑い日が続いたり、急に寒くなったりで、適応するには大変ですが、我が応援隊も老齢に鞭を入れて冬の作業が始まりました。

◇11月第1週の作業は、梅林の今年最後の草刈り。年3回、駐車場奥の梅林を一斉草刈り。春・夏は草花が一斉に咲き誇るので、残す草花を避け市松模様に刈るのですが、秋の終わりは殆んど冬眠状態ゆえ一斉刈り。機械を駆使して気兼ねなく刈り取り、来春の花咲に期待します。

◇11月第3週の作業は、ムジナにて炭材切だし。ムジナの里へ正月明けの炭焼き用に、炭材用の孟宗竹を切り出し。参加者が少なく穂先や先の細い竹は残して後日、粉碎機に掛け予定。炭材は運搬できるサイズにそろえて、梅林奥の炭屋横に運び作業は終了

◇12月第1週の作業は、炭材切り予定であったが、参加が少なく中止。

◇12月第3週の作業は、炭出しと詰込み。年明けの第1週に火入れ式をして2025年最初の炭焼きが始まります。その事前準備として、前回焼いた炭を出し、新たな炭材を炭窯に詰め、火入れ式後の炭焼きの準備。前回焼いた炭は綺麗に焼き上がりました。その他、新たな作業として「山百合」を観察の森やムジナの里に植え、昔の美しい里山を再現させようと種を頂きポット植えを行いました。また新年に向け、しめ縄用の藁が手に入ったので、炭窯に飾る牛蒡注連(ごぼうじめ)を作りました。他、炭屋の廻りの清掃や整理をして、新たな新年を迎える準備。そして、手作りの牛蒡注連(ごぼうじめ)を炭屋に飾り2024年の締めくくりをして、来年度も健康に、楽しく、安全に作業が出来ますよう祈りつつ、今年の作業は終了しました。



ヤマユリの種まきを行う様子



手作りの牛蒡じめ



炭屋の前で新年の活動を祈願する様子

主催行事ネイチャーキッズ「バッタ博士になろう」開催報告

丸山 淳子

昨年9月28日(土)、観察の森のバッタ三大生息地である「バッタの原」「梅林」「森の畑」で子どもたちとどんなバッタの種類が生息しているか探して観察し、バッタの飛距離を計測する行事を開催しました。対象の子どもたちは6歳～8歳、虫取りが大好きな子どもたちとその保護者が参加してくれました。

生息地ごとにバッタを捕まえて種類を見ていきましたが、「梅林」ではクルマバッタ、「森の畑」ではオンブバッタ、ショウリョウバッタ、「バッタの原」ではショウリョウバッタモドキ、ヒナバッタ、ショウリョウバッタ、ツチイナゴが主にみられ、生息地の日当たり、まわりの様子、植物の種類、草丈などが関連していると思われますが種類が少しずつ変わっていくのが興味深いところでした。たくさん子どもたちの目があり、今回イボバッタが梅林で、バッタの王様であるトノサマバッタがバッタの原でみつけられてみんなで喜びました。飛距離を計測する方法はバッタを飛ばした位置と飛んで行った先を30メートルメジャーで測るアナログな手法で行い、クルマバッタ12.9m、クビキリギス11.5m、トノサマバッタ15.5mという記

録が出ました。バッタのジャンプ力に一同感心しました。バッタと一緒に走っている子どもたちの姿が微笑ましかったし、いろんな種類のバッタが生息していることを理解していただけたと感じました。今後も来園者の方に観察の森の生きものたちの魅力を発信していきたいと思います。



バッタ探しをする様子

野山の動植物



越冬するウラギンシジミ



ヤマノイモの実